

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成17年12月22日(2005.12.22)

【公表番号】特表2004-529884(P2004-529884A)

【公表日】平成16年9月30日(2004.9.30)

【年通号数】公開・登録公報2004-038

【出願番号】特願2002-567231(P2002-567231)

【国際特許分類第7版】

A 6 1 K 51/00

A 6 1 K 47/10

A 6 1 K 47/22

C 0 7 K 1/13

C 0 7 K 2/00

C 0 7 K 14/435

C 0 7 K 14/705

C 0 7 K 16/00

【F I】

A 6 1 K 49/02 A

A 6 1 K 47/10

A 6 1 K 47/22

C 0 7 K 1/13

C 0 7 K 2/00

C 0 7 K 14/435

C 0 7 K 14/705

C 0 7 K 16/00

A 6 1 K 43/00

【手続補正書】

【提出日】平成17年2月18日(2005.2.18)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

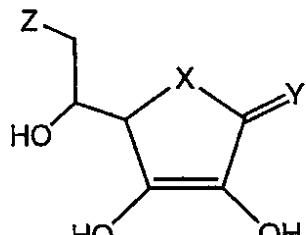
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

式：M-Ch-Ln-(BM)_mの放射性標識キレーター・生体分子コンジュゲート、および(1)放射線誘発性分解に対して式：M-Ch-Ln(BM)_mの放射性標識キレーター・生体分子コンジュゲートを安定化させ、そして(2)放射性医薬組成物のpHを制御し、(3)放射性金属コロイドの形成を抑制する(少なくとも1つ)のに有効な量の式(1)：

【化1】



(I)

[式中、XはO、NR¹、またはCHR¹であり、

YはOまたはSであり、

Zは水酸基またはハロゲンであり、

R¹は0-5R²で置換された(C₁-C₁₀)アルキル、0-5R²で置換された(C₃-C₁₀)シクロアルキル、0-5R²で置換された(C₂-C₁₀)アルケニル、および0-5R²で置換されたアリールから選ばれ、

R²は、それぞれ独立してNH₂、OH、CO₂H、C(=O)NH₂、NHC(=NH)NH₂、PO₃H₂、およびSO₃Hから選ばれる。]

の化合物または該医薬的に許容される塩を含む放射性医薬組成物。

【請求項2】

XがOである請求項1の放射性医薬組成物。

【請求項3】

YがOである請求項1の放射性医薬組成物。

【請求項4】

Zが水酸基である請求項1の放射性医薬組成物。

【請求項5】

mが1~約5である請求項1の放射性医薬組成物。

【請求項6】

mが1または2である請求項1の放射性医薬組成物。

【請求項7】

mが1である請求項1の放射性医薬組成物。

【請求項8】

式(I)の化合物の濃度が約2mg/mL~約200mg/mLである請求項1の放射性医薬組成物。

【請求項9】

金属放射性同位元素が約10mCi~約2000mCiのレベルで存在する請求項1の放射性医薬組成物。

【請求項10】

式:M-Ch-Ln-(BM)_mの放射性標識キレーター・生体分子コンジュゲートが診断用放射性医薬である請求項1の放射性医薬組成物。

【請求項11】

式:M-Ch-Ln-(BM)_mの放射性標識キレーター・生体分子コンジュゲートが治療用放射性医薬である請求項1の放射性医薬組成物。

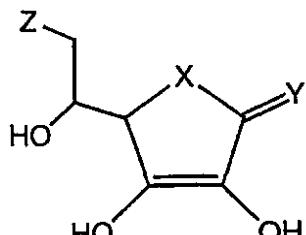
【請求項12】

生体分子がペプチドである請求項1の放射性医薬組成物。

【請求項13】

式:M-Ch-Ln-(BM)_mの放射性標識キレーター・生体分子コンジュゲート、および式(I):

【化2】



(I)

[式中、Mは金属放射性同位元素であり、

Chは金属キレーターであり、

Lnは所望の連結基であり、

BMは生体分子であり、

mは1~約10であり、

XはO、NR¹、またはCHR¹であり、

YはOまたはSであり、

Zは水酸基またはハロゲンであり、

R¹は、0-5R²で置換された(C₁-C₁₀)アルキル、0-5R²で置換された(C₃-C₁₀)シクロアルキル、0-5R²で置換された(C₂-C₁₀)アルケニル、および0-5R²で置換されたアリールから選ばれ、

R²は、それぞれ独立してNH₂、OH、CO₂H、C(=O)NH₂、NHC(=NH)NH₂、PO₃H₂、およびSO₃Hから選ばれる。]

の化合物またはその医薬的に許容される塩を含む放射性医薬組成物(ただし、放射性医薬組成物はさらなる緩衝剤またはさらなるキレート試薬を含まない。)。